



いま、なぜ美術作品の鑑賞が大切なのでしょう？

鑑賞の目的は、学習指導要領の目標に示されているとおり、「美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う」ことにあります。

美術作品との素敵な出会いは、児童・生徒に新たな「発見」や「感動体験」をもたらし、貴重な心の財産となるでしょう。

この鑑賞プログラムは、美術作品にかかわる知識を伝えるものではなく、児童・生徒が作品を楽しく鑑賞する中で、「大人になっても美術作品と向き合う心を育てたい」と願って実施するものです。



美術館には、どんな鑑賞プログラムがあるのですか？

その1. ワークシートを使った美術作品の鑑賞

クラス単位にわかれ、学芸員や美術館ボランティアが先生と連携しながら、ワークシートを用いて美術作品を鑑賞していきます。児童が「見る」「考える」「話す」「聞く」という鑑賞の基本を体験します。今年度は、新型コロナウイルス感染予防により、展示室内での対話形式の鑑賞はできませんが、ワークシートを使って鑑賞します。初めて作品と出会う児童・生徒でも、作品への興味を持ちやすくすることをねらいとしています。



- 実施場所：企画展示室、常設展示室
- 対象：小学生・中学生
- 所要時間：約30分～60分

※参加者の経験や目的に合わせて作品や方法を決めるので、事前に担当者が電話等で先生と打合せをします。

福山市内小学校4年生対象事業『10才の君へ ようこそ美術館プロジェクト』につきましては、このスクール・プログラムとは異なります。学校教育部学びづくり課の事業となります。

鑑賞の流れの例 あいさつ → ワークシートを用いた美術作品の鑑賞(30分) → 集合して発表

その2. 施設見学

美術館の展覧会についてのごく短時間の説明や、施設(バックヤード等)のご案内をします。

- 実施場所：美術館内
- 対象：小学生・中学生
- 所要時間：約30分

その3. モニュメント・マップ

ふくやま美術館モニュメント・マップ『怪盗パツラの挑戦状!』を使います。美術館周辺の18のモニュメントを回り、シールを貼り、クイズに答えていく体験型の鑑賞プログラムです。

- 実施場所：野外
- 対象：小学生・中学生
- 所要時間：約60分

鑑賞の流れの例 美術館前に集合・マップの配付と注意(5分) → 児童・生徒が各々野外モニュメントをまわる(55分) → 集合



いつ美術館に行くのがいいのでしょうか？

案①

季節ごとに、テーマの違う様々な『特別展』があります。目的に合わせてお選びください。

2021年度 特別展

期 間	内 容
春 4月10日(土) ▼ 6月6日(日)	はしもとみお どうぶつ彫刻展 美術館でアートキャンプ! はしもとみお(1980~)は、身の回りの動物をモチーフに、木彫作品を制作する彫刻家です。本展では、彼女がこれまでに手がけた生きものたちが大集合。キャンプ場に見立てた展示室で、海に行ったり、森で遊んだり、星空を眺めたりして、楽しい一日を過ごします。命の輝きあふれる、はしもとみおの世界をお楽しみください。
夏Ⅰ 7月8日(木) ▼ 7月25日(日)	築城400年事業Ⅰ 城下町・福山の美術 福山城の周囲に形成された城下町の歴史をひもとく、その文化の繁栄と変遷を多彩な美術作品や文化財によって紹介する展覧会。歴代藩主に関わる文芸や歴史資料、茶の湯をはじめとする武家や町人の文化、狩野派や円山四策派からの影響を受けた近世福山の絵画、能や琴、姫谷焼、朝鮮通信使などに焦点を当て、その魅力と特質を探ります。
夏Ⅱ 7月31日(土) ▼ 8月29日(日)	築城400年事業Ⅱ 瀧光夫と福山ゆかりの建築家展 建築家・瀧光夫(1936~2016)に焦点を当てた展覧会です。尾道市の向島に生まれた瀧は、京都大学やコロンビア大学大学院で建築を学び、関西を拠点として活躍しました。緑と建築の対話を求め、環境デザインの世界を先駆的に切り拓いたその生涯の仕事、模型や図面、多彩な資料によってたどりまします。また、福山ゆかりの建築家についてもあわせて紹介します。
秋 9月18日(土) ▼ 11月21日(日)	北澤美術館所蔵 ルネ・ラリック アール・デコのガラス モダン・エレガンスの美 1920年代を中心に、芸術のみならず身の回りの生活のあらゆる分野に多大なる影響を与えたアール・デコ様式。モダンで、エレガントな様式を切り開いたのがガラスを用いたルネ・ラリック(1860~1945)の作品でした。本展では、世界屈指のガラス・コレクションを有する北澤美術館からラリックの名品を紹介します。
冬 2022年 1月29日(土) ▼ 3月27日(日)	アニメサザエさんとともに50年 -エイケン制作アニメーションの世界- 数々の名作を世に送り出してきたアニメスタジオ『エイケン』。中でも、アニメ「サザエさん」の制作は約50年の長きにわたって手がけてきました。本展では、エイケンのアニメ作品の中から、原画・セル画等の貴重な資料約400点を展示。エイケンによるアニメ制作の全貌を明らかにします。

案②

所蔵品展の作品も合わせて鑑賞ください。

所蔵品展では、開館30周年を記念して収蔵したマルク・シャガール《青い花瓶》はじめ、日本近代を代表する画家・岸田劉生が愛娘を描いた《麗子十六歳之像》、ピカソやイタリア未来派のジャコモ・バッラ《輪を持つ女の子》、ソーニャ・ドローネー《色彩のリズム》といった色彩豊かな作品を年間を通してご覧いただけます。

児童・生徒が成長する過程で、繰り返し見ることでできる美術館の所蔵品は、美術鑑賞教育に好適といえましょう。

※都合により展示されていない作品もあります。

2021年度 所蔵品展

期 間	内 容
《春季》 4月7日(水)~6月20日(日)	生誕150年 ジャコモ・バッラ 20世紀イタリアで活躍したジャコモ・バッラの生誕150周年を記念して開催する個展。当館が所蔵するバッラの全作品を通して、その魅力と多様な制作活動を紹介します。
《夏季》 6月24日(木)~9月12日(日)	瀬戸内の風景 海峡に囲まれ、いくつもの島が浮かび、独自の景観を形作る瀬戸内海。近代画家たちによって描かれた額といった名所や瀬戸内の風景を通して、この地の自然と人の営みを探ります。
《秋季》 9月16日(木)~12月5日(日)	食と美術 -「いただきます」から「ごちそうさま」まで 「食」をとりまく情景は、多くの美術作品が取り上げてきた魅力的な主題です。食べ物を描いた絵画作品や、食事の際に用いられる工芸品を通して、生きていくうえで欠かすことのできない「食」を見つめ直します。
《冬季》 12月15日(水)~2022年3月27日(日)	20世紀 二大革命 フォーヴィスムvsキュビスム -色彩と形態の革新- 20世紀初頭、色彩と形態の革新を起し、芸術表現を自由にしたフォーヴィスムとキュビスム。この二大革命を牽引したパブロ・ピカソとアンリ・マティスを出発点として、その影響を受けた日本人画家の作品までを展覧します。

※特別展・所蔵品展の会期につきましては、新型コロナウイルス感染拡大により、急遽変更をさせていただく場合もあります。チラシやふくやま美術館ホームページ、市広報などで最新情報をチェックしてください。